

避難の大切さ

災害から命を守るためには、安全な場所へ避難することが何よりも重要です。普段から避難場所、避難ルートを確認して災害に備えておきましょう。

具体的な避難行動

学校や公民館に避難することだけが避難行動ではありません。「避難」とは「難」を「避」けること、状況に応じてさまざまな避難行動があります。いざという時に想定される4つの行動を紹介します。

①行政が指定した避難場所への避難

避難所への避難の際には、避難者の生活に必要なものを持参しましょう。



②安全な親戚・知人宅への避難

普段から避難することを相談しておきましょう。避難場所の安全確認にはハザードマップを活用しましょう。



③安全なホテル・旅館への避難

事前の予約・確認や宿泊料が必要です。避難場所の安全確認にはハザードマップを活用しましょう。



④屋内での安全確保

土砂災害の危険がない区域にある水害に耐える木造以外の建物で、居室が浸水深より高く、水・食料などの備えが十分な場合は、その場にとどまることも選択肢の一つになり得ます。



TOPICS

災害の教訓を生かして、大規模災害でも死傷者ゼロ

昭和57年7月23日、長崎県中部から南部に停滞した梅雨前線が、翌日までに572mmの降雨をもたらし、土石流や崖崩れなどが各地で発生しました。この「長崎大水害」は、多くの犠牲者と被害が発生する未曾有の大規模災害となりました。

長崎市内の山川河内地区では、大昔に土石流災害が起こり、その犠牲者の供養と災害の教訓を後世に伝えるために、「念仏講まんじゅう配り」を行っていたため、長崎大水害の際には、家屋に甚大な被害が出る中、住民の多くが早めの避難を行い、死傷者が出ませんでした。

山川河内地区の「念仏講まんじゅう配り」は、取り組みを通して、実際の災害時の犠牲を防げたことが評価され「NIPPON防災資産」に認定されました。



NIPPON防災資産認定証授与式の様子

避難情報の発令

大雨や台風などで災害が発生する恐れがある場合、皆さんを災害から守り、被害拡大を防ぐため、各市町から避難情報が発令されます。避難情報は防災行政無線などを通じて周知されます。

警戒レベル	避難情報と取るべき行動
5	緊急安全確保:既に災害が発生・切迫。直ちに身の安全を確保しましょう。
4	避難指示:災害発生の恐れ高い。速やかに危険な場所から避難しましょう。
3	高齢者等避難:避難に時間のかかる人とその支援者は避難しましょう。
2	大雨・洪水・高潮注意報:避難に備え、自らの避難行動を確認しましょう。
1	早期注意情報:気象状況の悪化に備え、災害への心構えを高めましょう。

避難のタイミングと避難場所を事前に確認せんば。



問合せ 県の防災企画課 ☎095-895-2143

県政特集

災害を防ぎ、災害に備える

近年、気候変動の影響により災害の激甚化・頻発化が懸念されており、自然災害の脅威が身近に迫っています。

本県では、災害に強い長崎県を実現するため、「みんなで取り組む災害に強い長崎県づくり条例」を定め、県民・事業者・県・市町・防災機関がそれぞれの役割の中で、助け合いながら、防災・減災対策を推進しています。



令和2年7月豪雨による佐奈河内川周辺の浸水状況【大村市】



令和3年8月豪雨により発生した土石流【雲仙市】

施設整備による防災対策

洪水対策

河川の氾濫を防ぐため、川幅を広げるなどの河川改修事業を進めており、今年度は30河川で事業を実施しています。また、河川整備と組み合わせたダム^{しゅんせつ}の整備や堆積した土砂の浚渫^{しゅんせつ}、樹木の除去作業も県内各地で計画的に進めています。

※河底の土砂などを掘削すること

佐世保市の日野川河川改修工事



土砂災害対策

土砂災害による被害を未然に防止・軽減するため、土石流を防ぐ砂防堰堤や崖崩れを防ぐ法面などの施設を整備する事業を県内各地で実施しています。

諫早市の崎ノ谷川砂防堰堤整備工事



問合せ 県の河川課 ☎095-823-3280 県の砂防課 ☎095-894-3076

災害に備えるチェックリスト

いざという時に備えて、非常用持ち出し袋や備蓄品のチェックを行いましょう。家庭や職場の環境に合わせて、自分に必要なもの、一緒に避難する人に必要なものを考えてみましょう。

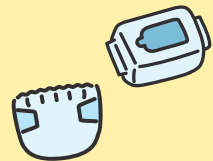
非常用持ち出し袋

- | | |
|---|--------------------------------------|
| ☐ 水 | ☐ 軍手 |
| ☐ 食品(レトルト食品、ビスケットなど) | ☐ 洗面用具 |
| ※水・食品は最低3日分を用意 | ☐ 歯ブラシ・歯磨き粉 |
| ☐ 防災用ヘルメット・防災ずきん | ☐ タオル |
| ☐ 衣類・下着 | ☐ ペン・ノート |
| ☐ レインウェア | ☐ 持病の薬 |
| ☐ ひもなしのズック靴 | ☐ お薬手帳のコピー |
| ☐ 懐中電灯(手動充電式が便利) | 【感染症対策に有効】 |
| ☐ 携帯ラジオ(手動充電式が便利) | ☐ マスク |
| ☐ 予備電池・携帯充電器 | ☐ 手指消毒用アルコール |
| ☐ マッチ・ろうそく | ☐ せっけん・ハンドソープ |
| ☐ 救急用品(ばんそうこう、消毒液など) | ☐ ウェットティッシュ |
| ☐ 使い捨てカイロ | ☐ 体温計 |
| ☐ ブランケット | |



～子どもがいる家庭～

- ☐ ミルク(キューブタイプ)
- ☐ 使い捨て哺乳瓶
- ☐ 離乳食
- ☐ 携帯用のスプーン・フォーク
- ☐ 紙おむつ
- ☐ お尻拭き
- ☐ ネックライト
- ☐ 抱っこひも
- ☐ 子どもの靴



～女性～

- ☐ 生理用品
- ☐ おりものシート
- ☐ サナタリーショーツ
- ☐ 中身の见えないゴミ袋
- ☐ 防犯ブザー・ホイッスル

～高齢者がいる家庭～

- ☐ 大人用紙パンツ
- ☐ デリケートゾーンの洗浄剤
- ☐ 入れ歯・洗浄剤
- ☐ 介護食
- ☐ つえ
- ☐ 補聴器
- ☐ 吸水パッド

自宅や職場に備える備蓄品

- ☐ 食料や水 最低3日分、可能であれば1週間分を人数分
※保存期間の長いものを多めに買って、消費したら補充する習慣にすると、常に食料の備蓄が可能です
- ☐ 生活用品
(例)ティッシュ、トイレトペーパー、ラップ、ゴミ袋、ポリタンク、携帯トイレなど

近年、自然災害は激甚化・頻発化しており、全国各地で甚大な被害が発生しています。県内においてもいつ大規模災害が起こってもおかしくない状況であり、県では県民の皆さんの生命・財産を守るため、防災・減災対策に取り組んでいます。

県民の皆さまにおかれても、緊急時の情報収集や早めの避難、そのためにハザードマップの確認や非常用持ち出し袋の準備など日頃からの備えをお願いします。

長崎県知事
大石 賢吾

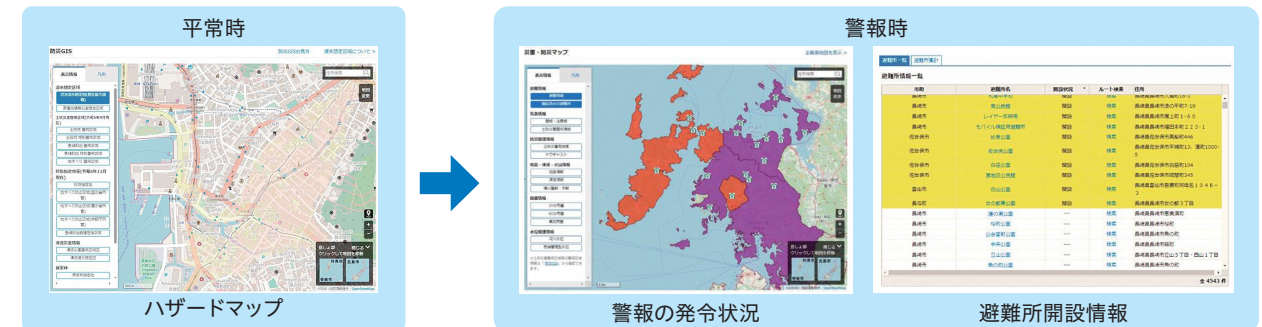


避難のための支援

県民の皆さんの避難行動をサポートするために、県のウェブサイトでは防災情報を随時発信しています。大雨や台風が接近した際など、お住まいの地域の防災情報の収集にご活用ください。

長崎県防災ポータル

平常時にはハザードマップや雨量レーダーを確認できるほか、災害が発生する恐れが高まった時には、気象警報・注意報や避難情報、避難所開設情報を確認することができます。中国語やベトナム語など多言語化にも対応しています。



長崎県河川砂防情報システム(NAKSS)

河川水位や雨量情報などの防災情報をリアルタイムで掲載しています。県が管理する河川監視カメラの画像により最新の河川の状況を確認できるほか、地域ごとの土砂災害の恐れの高まりを視覚的に確認することができます。



避難者を支援するために

県内で、長崎大水害のような大規模災害が発生し、多くの県民が避難生活を余儀なくされた場合に備えて、関係機関と連携したさまざまな取り組みを進めています。

災害協定の締結

物資などが不足する大規模災害時に備えて、各種関係機関と連携した支援体制の確立に取り組んでいます。例えば、自動車メーカーとの連携により、災害時に避難所へ電気自動車を向かわせ、電気を共有することができるようにすることや、長崎県キッチンカー協会との協定により、温かい食事提供の実現に向けて取り組んでいます。



長崎県キッチンカー協会との連携協定締結式の様子

避難物資の確保

市町による避難所環境の改善に向けた取り組みを支援するため、簡易ベットやパーティションの確保に取り組んでいます。避難生活が長期にわたる場合には、被災エリアに物資を運搬し、避難者の生活環境の確保に努めるほか、防災イベントなどで活用することで、防災意識の向上につなげます。



避難者用の簡易ベット

問合せ 県の防災企画課 ☎ 095-895-2143